

はじめに

大阪・上町台地界隈をフィールドに、大阪ガス実験集合住宅NEXT21第3フェーズ実験の一環として、2007年春から「U・C・O・R・Oプロジェクト」に取り組んできた(※1)。「上町台地まつり絵巻」の展示でスタートしたU・C・O・R・Oウィンドウ・エキジビション(展示)は、その後、子どもと遊びの今昔をたずね、緑の回廊や水脈をめぐる、日常から減災へ想いを馳せるきっかけづくりや、地野菜から広がる

物語が紡ぎだされてきている(次ページ図1)。

NEXT21第3フェーズ実験の最終年度・最終回となる、第15回の展示テーマは「U・C・O・R・O人絵巻」上町台地百人一句」。U・C・O・R・Oが培った縁から続いていく、つながりの物語を伝えるとともに、一連のプロジェクトを紹介して出会った方々から寄せられた、上町台地の明日への一句の数々(次々ページ図2)で構成している。ウィンドウで躍る一語一語が、上町台地に生き会う意味を物語り、響き合っている。明日への道標ともなる絵巻のごときである。それらの紹介をもって、当連載の最終回としたい。

弘本 由香里

Written by Yukari Hiromoto

大阪・上町台地発
都心居住文化の創造へ
(第23話)

明日への道標

―続いていく、つながりの物語

人の輪への着目、まちなかのプロフェッショナル探訪など、上町台地の多彩な資源と人々をつなぐテーマ設定で、5年に渡り回を重ねてきた。

各回のウィンドウ・エキジビションや関連イベントは、上町台地で暮らし・生業を営む方々を中心に、地域に関わる多彩なプレイヤーの理解と協力・連携によって実現してきたものである。その賜物として、減災の智慧を活かし合う関係づくりや、地野菜の栽培プロジェクトの広がり、暮らしとものづくりの縁結びなど、上町台地界隈はもろろんのこと、東日本大震災の被災地まで、さまざまな出会いと

続いていく、つながりの物語 1

―減災の智慧を活かし合う関係づくり

2007年、第3回U・C・O・R・Oウィンドウ・エキジビションで、全国各地に取材したストーリーブック『いのちをまもる智慧』減災に挑む30の風景』(発行：NPO法人レスキューストックヤード)を紹介。2008年には、減災ゲーム「クロスロード」(制作・著作：Team Crossroad(網代剛、吉川肇子、矢守克也))を活用し、第6回ウィンドウ・エキジビション「減災ゲームで気づく、上町台地の暮らしいろ



図2 「上町台地の明日を想う」投句の数々(いにしえ人の句・歌を含む) ※次ページに続く



※前ページ図2つづき

のひとつとして賞味している早川靖枝さん(デザイナー兼センター陽だまり施設長)。お二人からは、栽培を通して恵み・恵まれ合うことへのメッセージをいただいた。

玉造黒門越瓜栽培ツルつなぎプロジェクトとUCORO
「玉造黒門越瓜栽培ツルつなぎプロジェクト」

も4年目のシーズンが過ぎました。毎年、栽培場所や時期は同じでも出来が違う。伝統野菜ならではの感動があったかと思えます。また、自然に感謝する年もあるれば、その脅威を感じる年もあったのではないのでしょうか。昔の上町人もこのような感動を共有し、災害時にはタネを分け合うなどの努力で、越瓜

が伝統野菜として残ってきたのかもしれない。天候を含め世の中が大きく変動するなか、収穫の増減にかかわらず、栽培者のつながりは確実に増えていることに感謝いたします。

〈鈴木伸廣〉

玉造黒門越瓜と出会って

初めての種まきは2009年の春。間引き、摘心、受粉と大奮闘の末、5個を収穫。昨年はその経験を生かして、楽勝の5個(笑)。ところが今年は、わずかに3本の発芽のうえに、成長もままならず。雄花ばかりで雌花はチラホラ。「何を甘えとるんやー」とハサミ片手に「サルカニ合戦」の蟹よろしく、にらみを利かせて叱咤の日々。よほど怖かったのか(笑)、7月末にやっと1キロ余りの巨大児誕生後、大小取り混ぜ6個も生まれました。小さな庭の一隅は、やさしい陽の光と風の恵みの「陽だまり」。来年への夢つなぎ、そしてツルつなぎ…。

〈早川靖枝〉

続いつくづきながりの物語 3

—暮らいつくづきながりの縁結び—

2011年、第13回U・C・O・R・Oウインドウ・エキジビション「上町台地まちなかのプロフェッショナル」の展示では、丁寧な手をかけたものを介して、人や地域とのつながりを大切に、暮らしによりそうまちなかの生業を探索した。上町台地に積み重ねられてきた、多彩な手仕事・ものづくり・商いの担い手との出会いは、同展と連携する「上町台地・職人研(丸善ポタン)」での、ジャンルを越えたコラボレーションによる商品づくりや、NEXT21住戸へのメイド・イン・上町台地の導入にも活かされつつある。

上町台地・職人研を主宰する岸本知子さん(丸善ポタン株式会社)、上町台地・職人研の座長でかつNEXT21の住戸計画・設計に携わる高田光雄さん(京都大学大学院工学研究科教授)、NEXT21の改修住戸で使われるガス囲炉裏の製作を手がけた吉村健一さん(旭進ガス器製作所)から、ものづくりとまちと暮らしをつなぐメッセージをいただいた。

ものづくりとまちづくりのリレーをこれからも

U・C・O・R・Oや弊社のプロジェクトのなかで、大阪のさまざまな職人さんにお会いすることができました。それぞれの職人さんは、一つの職能について長年磨きをかけていらっしゃるだけでなく、時代によって移り変わるお客様の要望、事業の展望からまちの活性化策、日本の将来などについて、日々考え、新しいアイデアを生み、試しているというエネルギーが満タンで、その魅力をぜひ、次の世代へも引き継いでいければと思っています。

〈岸本知子〉

職人さんとの住まい・まちづくり

大阪は、商いのまちであるとともにものづくりのまちでもあります。都心居住の魅力の一つは、まちで「こさえた」ものとの関わりを持つこと。まちなかには、こんなええところがあるまちに住む喜びや誇りとともに、こんなええもんが産まれるまちに住む喜びや誇りがあります。もう一つは、それらを「こさえた」人との関わりを持つこと。職人さんとそのつながりはまちの大きな財産です。これからの上町台地界限で、いろいろな住まい手と職人さんとの住まい・まちづくりの展開に期待しています。

〈高田光雄〉

囲炉裏のガス火に縁を託す

U・C・O・R・Oのご縁をもって、NEXT21の改修住戸用にガスの囲炉裏をつくりました。たき火や囲炉裏など火を囲む習慣には、人をつなぐ役割もありました。みんなで身体を温め合い、一緒においしい料理を食べれば、疲れもほぐれ、会話も弾むはず。この囲炉裏にはそんな願いも込めさせてもらいました。まちなかのマンションでつながりの試みをつくる。ものづくりに関わり続けていたことで、まちづくりの新たな挑戦もさせてもらえました。

〈吉村健一〉

2011年11月には、吉村さんが心をこめてメンテナンスして磨き上げた中古のお好み焼きテーブルが、東日本大震災の被災地・岩手県野田村へと旅立っていった。支援活動を続ける渥美公秀さんとともに上町台地を訪れた、野田村の貫牛利一さん(久慈市観光物産協会専務理事)たちが、お好み焼きの「てっぱん」を真ん中に老若男女が雑談に興じる風景に感激。囲炉裏を囲む東北の原風景を想い、ぜひ仮設住宅で暮らす方々のもとへお好み焼きテーブルを届けたいとの願いを実現した(写真1)。

おわり「上町台地 明日への一句から」

「上町台地の明日を想って自由な一句をお寄せください」。上町台地界隈を舞台に、U・C・O・R・Oを通して育まれてきた縁を、明日につないでいくことができればとの思いで呼びかけた。寄せられた一句一句、一語一語から、時を越えて受け継がれていく上町台地が浮かび上がってくる。いにしえ人たちの残した歌や句も合わせ、上町台地に暮らし生きる人々の日々の心模様が織り合わされ、紡がれ

ていく、上町台地の明日への絵巻さながらである。人から人へ、続いていくつながりの物語がある(図2)。

「秀吉とおなじ謡のひびくまち(山本能楽堂)」「猪飼野に韓流ファンの母娘連れ(呉光現)」「夕陽こえて浄土想ほゆ一心寺(高口恭行)」…と、上町台地に積み重ねられてきた時の結晶としての句の数々がある。また、「(玉造黒門)越瓜のツルがつなげる人(横山光雄)」「おんがくさいひととのまじわりメインです(吉見孝信)」「路地の奥あかりが灯ることみの宴(酒向八智代)」…と、人と人の交わりのかげがえのなさを伝える句も多い。一方で、「地域力、地域力と言われる度に町会へ、加入する家減ってゆく憂うかな憂うかな(小さな街の町会長 小西陸夫)」「いつから自転車(凶器)になったんや(橋本光隆)」…と、まちを想うゆえの憂いの声もある。

「上町の下町子らのふるさと(山根秀宣)」「子育ての為にうえまち帰ろかな(小田切聡)」…といった声や、希望をつないでいく。そして「まちぐらしいRoんなCoろをUけいれて(高田光雄)」「ここは上町にいて花いちりん(上田假奈代)」…と、まちに生き会うことの意味やひとりひとりの尊厳へと至る。

2012年春、東日本大震災から1年。激しいグローバル化の波、少子高齢化・人口減少の進行の中で、改めて地域の力が問われている。大阪・上町台地からその課題に向き合うことが、当連載の動機でもあった。ここから続いていくつながりの物語を、ともに見つめていきたい。

「難波津に咲くやこの花冬ごもり今は春べと咲くやこの花(王仁)」遠い昔から大切にされてきた上町台地ゆかりの歌を添え、深い感謝とともに、ひとまずこの連載を閉じる。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員)

CEL



写真1
大阪・生野から岩手県野田村へ
旅立つお好み焼きテーブル
(左が貫牛利一さん、中央が吉村
健一さん、撮影は早川厚志さん)

(※1) U・C・O・R・Oプロジェクトの詳細は、ホームページで紹介している。
<http://www.osakagas.co.jp/company/eforts/cel/issue/cel/>
ウィンドウ・エキジビションや関連イベントは、U・C・O・R・Oプロジェクト・ワーキングが企画・運営している。2012年3月現在の同ワーキング・コアメンバーは、弘本由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所)上町台地からまちを考える会)、橋本護(B・t・r・a・i・n)、早川厚志(まちづくり工房/上町台地からまちを考える会)。